

GREEN RANGER NEWS

2026 年 10 月号 Vol.382



NPO 法人蔵王のブナと水を守る会事務局
〒989-0231
宮城県白石市福岡蔵本字滝下101 番地 1
URL <http://www.zao.org/>
e-mail mail@zao.org

■9月13日(日) 荒浜海岸林

今年の海岸林での活動は、2 回続けて雨で中止。今日は久しぶりに活動できると思いきや、家を出る時に霧雨だったのが、名取に入ってから強くなってきた。今日の活動に参加いただく東邦運輸倉庫さんから「雨が強いけれど、中止になりませんか?」、早く到着した会員からも「かなり降っているよ!」との連絡が入り、今日も活動ができないのか、とガッカリ。

しかし、活動を開始する頃には小降りになって、無事に作業ができた。作業の前に森山さんから『日本三大猛毒植物』である『ドクウツギ』の説明があった。実物を見せて「この植林地にも入り込んでいるので注意するように!」との事だったので、注意しながらの活動となった。因みに、あとの2つはトリカブトとドクゼリ。

次第に雨が上がり、4 名の参加があった東邦運輸倉庫さんには、高枝鋸での枝打ちを体験していただいた。将来残したい木に光が当たるように、伸びすぎたヤマハンノキの枝を伐る作業だ。頑張っていたお陰で、植林地全体が明るくなった。枝打ち作業、お疲れ様でした!

作業が早めに終わったので、森山さんの案内で近隣の植林地を見て回った。殆どがクロマツで、手入れが行き届いている所、荒れ放題の所と様々だった。普段、ブナの会の植林地しか見ていないので、改めて荒浜海岸林のどこまでも続く広大さに圧倒された。

(参加者:企業 4 名、会員 7 名 計 11 名)



ミーティング-1



ミーティング-2



イラガの幼虫



イラガの幼虫の話



ケヤキ



ジョロウグモがいっぱい待っていました。



ブナ①



アカシデ



長柄ノコギリの使い方



荒浜植林地、西側より



堆肥



茸の季節ですが



不要枝の剪定実践-1



不要枝の剪定実践-2



剪定作業



剪定後

■9月27日(日) 全観察路チェック、大木に愛称を付ける

今日は雨のため、午前中は動物のカメラ班の活動をしながら自然観察を行った。参加者が少ないので、大木に愛称を付けるのは中止。

彩遊の森、アナグマの森、リスの森の順に回った。小雨降る中、ガマズミの真っ赤な実が、はつとするような美しさだ。毎年のことながら感動する。ヤマボウシも実をつけている。熟した実をかじると、何とも言えない優しい甘さが広がる。多数落果していて、クマは食べているのだろうかと思った。ヤマナシは1個だけ実をつけていた。貴重な1個なのでクマに残すことにした。

カメラの調整をしていると蚊に狙われる。秋は蚊が多くて大変だ。アナグマの森の、実をつけたブナの木を見る。「今年はブナが豊作」と言われるが、まだ成長過程のブナには、それほど多くの実はついていない。クマが楽しみにするくらい実をつけるのは、何年先になるのだろうか。木登りをして実をむさぼっているクマを想像してみた。

歩いていると、ツリバナの赤い色が目を引く。ノコンギクの薄紫色も美しい。ピンク色のツリフネソウが固まって咲いているのを見つけた。何とも愛らしい花だ。色々な花に出逢えて、秋の森も楽しい。

午後は、木工用の台座となる、輪切りにした枝を磨く作業を行った。今年も来月3日に柴田町で開催の「あそびのワンダーランド」に、会として参加するので、その準備だ。この台座に木の実を飾って作品を創ってもらう。木のぬくもりや木の実に触れて、少しでも自然を感じてもらえると嬉しいのだが...子どもたち、来てくれるかな？

(3名参加)



アキグミ



ガマズミ



コバギボウシ



シドケの花



タケニグサ



ツリバナ



ツリフネソウ



テンニンソウ



ノコギリク



ブナの殻斗



フユノハナワラビ



マユミ

■10月3日(土) あそびのワンダーランドに参加

恒例となった柴田町で開催の「あそびのワンダーランド」に参加しました。7つのブース(木育広場、木の実の飾り物作り、読み聞かせ、ボードゲーム、マイバック作り、バルーンアート、おもちゃ病院)に分かれ、子どもも大人もみんなで遊ぶ場です。もちろん、当会は「木の実の飾り物作り」の担当。

ここ数年、参加者が減少していたけれど、今年は宣伝方法を工夫したお陰で昨年より増加しました。木の実の飾り物作りには 30 名以上が訪れて、持参した枝の輪切りが足りなくなりそうでしたが、何とか間に合いました。今年もカラマツの実(枝付き)が好評でした。

子どもたちの素晴らしい作品をご覧ください。

(参加者:33 名)

